

禅点景

作者：**haraol**

概要：禅の庭の散策エッセー

禅点景

禅点景 2



心、無心
心は上手く統御しないとトラブルメーカーだ。
心は行動となり、行動は習慣となる。
習慣は品格を造り、品格は運命を決める
心
よく調のえし心こそ己のよるべ



虚空にさく花
悟りは心に依らない。
それ自体として、花開き香る。



無心
無心は天地の根源であり、天地として展開する。
それは常に、万物と一つである。



一人来て一人去るは誤りなり
どこにもいかぬいかぬここにいる。

うろじよりむろじへの一休み
雨降らば吹け風か吹かば吹け
(一休)



幽玄に遊ぶ

この身は俗世にあるといえども、心は無限の境地に遊ぶことを理想とする
坐禅せば、四条五条の橋の上
人を深山の木々と見て
(大燈)

達磨から慧可へ



達磨から慧可へ
禅宗の始まり。以後心から心へと、悟りを伝て現
在に至る。
インド、中国、日本、アメリカ、ヨーロッパへと
悟りを伝えつつある。

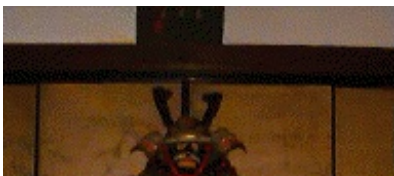


禅はハイブリッドな宗教だ。

中国で、老荘、儒教と融合し、自家薬籠中のものとする。
中国で、托鉢主体の仏教から、労働主体の仏教へと転換した。
大乘仏教として、大衆救済、国家の指導原理にもなった。



また、日本に伝来し、鎌倉、室町と国教となった。
日本で、生活と一体となり、芸術として開花した。



能、お茶、お花、建築、庭、絵画、剣道、
柔道、弓道、文学、哲学など
日本の誇るべき遺産となった。



絶対無の精神が自在に躍動する。
まだ、日本にはその香りが残っている。
それは、また、現在の息苦しい、形骸化した日本から、新天地のアメリカで新たな形態を獲得し復活しつつある。